

--うみつなぎ活動の報告--

三池工業高校との環境DNA調査を行いました！

有明海の環境問題を探るために、2022年11月12日（土）に地域の子供達および三池工業高校科学研究同好会様と一緒に三池港および柳川沖の環境DNAおよび水質調査を行いました（調査地点：図1参照）。当日は、まず地元の市場に上がった実際の魚種を確認し、市場長様からは地元の漁場についてありがたいお話をいただきました。その後、環境DNAの調査場所へ移動し、水質調査、環境DNAの採水方法とコンタミ防止対策を含めた調査時の注意事項などについて丁寧に指導を行いました。調査は、長年環境調査を行なっている九州大学工学研究院生態工学研究室の手順に沿った本格的なものとなり、参加者の好奇心を満ちた調査イベントになったようです。DNAの解析には時間を要するため、まだ解析結果は出ておりませんが、当日に見た市場の魚と同日のDNAの結果との照合や、過去のDNA結果との比較などが可能になるものと期待されます。さらに、ANEMONE DB (<https://db.anemone.bio>) に本データを掲載すれば、有明海の魚種の特異性や他の地域との関連性などを視覚的に理解しやすくなるなど、資源管理や学術への貢献も期待されます（図2参照）

今後も調査を継続し、有明海の資源や環境の状況を環境DNAによって見える化できるように協力していきたい思います。

九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センター
学術研究員 鶴木陽子



地元の大牟田魚市場での様子



水質・環境DNA調査の様子

写真A：水を汲む地域のお子さん

写真B：環境DNA採取のために、水を濾過する三池工業高校の生徒さんと地域のお子さん

写真C：水質測定をする三池工業高校の生徒さんと地域のお子さん

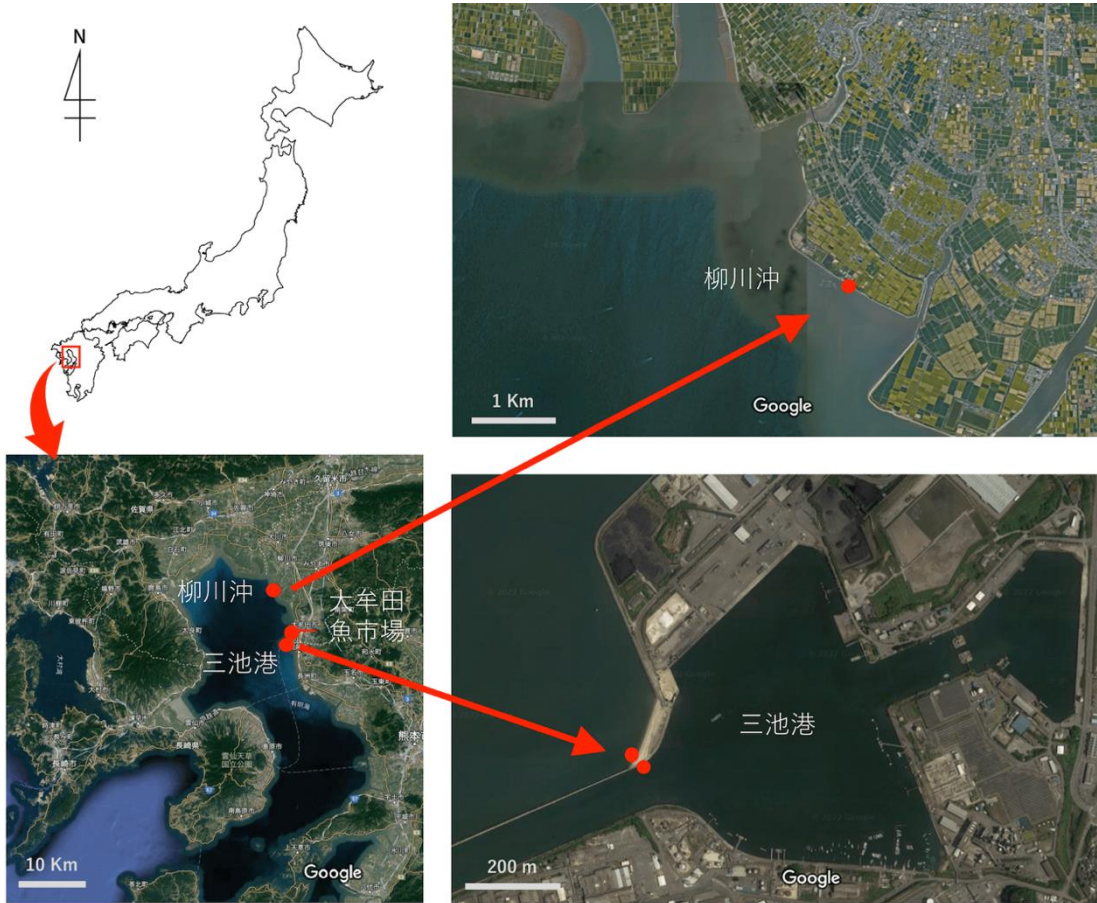


図1. 調査サンプリング地点

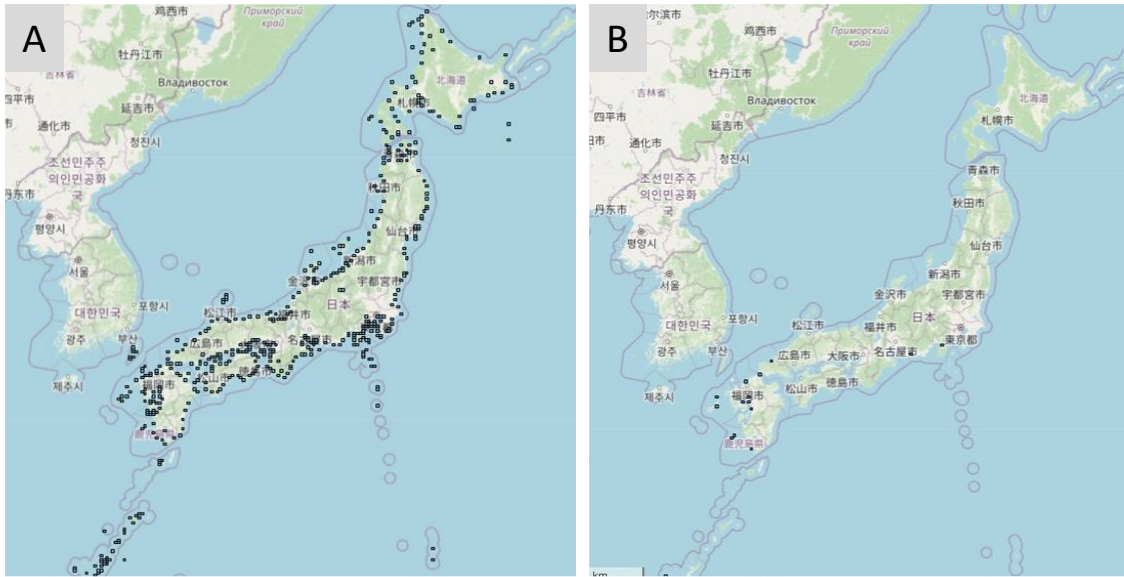


図2. ANEMONE DBでの活用事例

ANEMONE DBに登録されているデータから、一般的なハゼ（マハゼ属 (*Acanthogobius*)) (A) と、国内では主に有明海に生息するハゼクチ (*Acanthogobius hasta*)の分布を出して比較したもの (B) . 図中のドットが検出サイトを示す.